

東京神學大學報

T O K Y O

U N I O N



T H E O L O G I C A L S E M I N A R Y

No. 332

MAY 9. 2025

● 入学式式辞

東京神学大学 学長 神 代 真砂実

● 新入生の声

● 入試に向けた行事のご案内

● 「神学校日礼拝」奉仕神学生派遣に関するご案内

● 同窓会総会公示

二〇二四年度 卒業生赴任先一覧

佐藤 潤	日本基督教団	大宮教会	(担任教師)
中根 一茂	日本基督教団	豊明新生教会	(主任担任教師)
眞木 重郎	日本基督教団	相模原教会	(担任教師)
浅見 和花	日本基督教団	大和キリスト教会	(担任教師)
北田翔太郎	日本基督教団	上尾使徒教会	(主任担任教師)
金 奎植	在日大韓基督教会	品川教会	(信徒伝道者)
権 ヨセフ	単 立	土浦グレイスキリスト教会	(主任担任教師)
佐藤 晏	日本基督教団	大阪教会	(担任教師)
杉田 流司	イムマヌエル綜合伝道団	イムマヌエル聖宣神学院進学	
増尾 隆司	日本基督教団	吉祥寺教会	(担任教師)
矢島 若葉	日本基督教団	福岡中部教会	(担任教師)
ヤング肇子	日本基督教団	赤池教会	(主任担任教師)

2025 年度入学式・式辞

コリントの信徒への手紙 一 第2章 1節～5節

東京神学大学 学長 神代 真砂実



新年度の歩みを始めるにあたり、与えられた聖書の箇所によりながら、私達がする「神学」という学問について思いをめぐらせていきます。

この箇所でパウロは一貫して「人の知恵」・「この世の知恵」を拒否しています。4節には「霊」と力の証明によるものでした」とあります。これは5節の言葉で言え、**「神の力」**によるということです。パウロは**「人の知恵」**ではなく、**「神の力」**にこそ頼ろうとします。それは2節で言われているように、「十字架につけられたキリスト」にこそ集中するということです。こうした「神の力」と「人の知恵」のかかわりは、神学という学問に携わる者にとって非常に大切な問題です。

ギリシャの作家、ニコス・カザンツァキに『アシジの貧者』という、アシジのフランチェスコ（聖フランチェスコ）を主人公とした作品があります。この小説の中の一場面で、ピエトロという人がフランチェスコに従おうとして、その決心の経緯を語ります。優れた法学者だったピエトロは、二日前に最愛の弟子に死なれてしまいました。そして、その悲しい出来事以上にピエトロを動揺させた出来事がありました。夢に、この弟子が現れたのです。夢の中の弟子の体中には沢山の紙が巻きついていて、その紙の重さに邪魔されて、彼は天国に入れないで、煉獄にすら辿り着けないで、涙を流して

たのでした。

弟子の体に巻きついていたのは、その弟子の研究のメモで、そこには法学のだけではなく、哲学や神学のさまざまな議論が書いてありました。そのところで目を覚ましたピエトロは、さっそく自分の書物と原稿とを全て燃やして、フランチェスコのところにやって来たのでした。——ここにも、「神の力」と「人の知恵」とのかかわりという問題が現れています。

ところで、「神の力」というのを第1章の24節を踏まえて「神の知恵」・「キリスト」と言い換え、それに倣って、「人の知恵」というのを「人の力」と置き換えることも出来ると思います。「神の力」と「人の知恵」を「神の力」と「人の力」という風に言い換えてみるならば、どうしてパウロが、これほどに「神の力」に頼ることにこだわることがわかってきます。私達に救いをもたらすのは「人の力」ではなくて、「神の力」・「十字架につけられたキリスト」である——そのことが、パウロには、回心の経験を通して、しっかりと焼き付けられていたのです。

類の学問は、確かに、あのピエトロの弟子の姿のように、私達の足手まといになるものでしかないでしょう。

しかし、そうではなくて、「十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決め」たところに成り立つ神学というものもあります。私達は知恵を全て手放してしまふのではなくて、「神の知恵」・「キリスト」に集中します。そこにこそ現れてくる神学があります。それは「神の知恵」とその筋道を「神の知恵」に即して明らかにしようとする神学であり、私達が福音を宣べ伝える言葉を、しっかりと「十字架につけられたキリスト」に結びつけたものにしたようにする神学となります。それが正しくて意義深い神学です。神様に従う、「十字架につけられたキリスト」に焦点を合わせた神学をこそ私達はするのです。

私達は、自分がしているのが単なる「人の知恵」に過ぎない神学なのか、それとも、「神の知恵」に生きる中で生まれてくる、真の神学なのかを問わなければなりません。これから先、繰り返し何度も問わなければなりません。健全な神学というのは、まさに、そのようにしてこそ現れてきます。そのような神学を身に付ける学びの日々を、特に新入生の皆さんが、この神学校において送られることを願っています。

学長室から

学長 神代真砂実

新年度を迎えました。これで学長として任期の半分を務めたことになり、これから後半戦になります。これまでの神様と皆様のお支えに感謝申し上げます。

年度の変わり目にあたり、人事に関するお知らせをいたします。昨年、特任常勤講師として専任教員に加わってくださった宮崎薫先生（旧約聖書神学）が常勤講師となりました。今まで以上に本学の営みに深く関わっていただくこととなります。また、特任准教授として山口希生先生（新約聖書神学）に新たに加わっていただくことになりました。朴憲都先生が特任教授としての定年を迎えられたことによる専任教員の補充です。山口先生は日本同盟基督教団の教職であります。朴先生の神学におけるこれまでのお働きに神様の豊かな労いがありますよう、また、宮崎先生、山口先生のこれからの働きへの神様の助けがありますよう、お祈りください。

今年度は学部十名、大学院前期課程（修士課程）に二名の学生を迎えての出発となりました。学部一年次に三名、二年次に編入した者が一名、三年次に編入した者が六名ありました。これらの新入生達と共に始められる新年度の歩みについても、お祈りください。

募集そのものとしては、今回は厳しい結果でした。引き続き努力してまいります。どうぞ東京神学大学で学ぶ者を送り出してくださいませよう、よろしく願っています。

入試に向けた行事のご案内

入試担当 田中 光

2026 年度の入学者選抜に向けて、2025 年度も、幾つかの行事を計画しておりますので、ここにご案内申し上げます。

- ① 7 月 19 日（土）に「入試説明会」を行います。この会では例年、礼拝から始まり、学校の紹介、入試に関する説明、教員が担当する受験相談の時を設けております。学校を直接訪れて、その様子を肌で感じるができるまたとない機会ですので、本学での学びを志しておられる方は、是非お越しください。
- ② 9 月 27 日（土）に「日本伝道を担う青年の集い」を行います。昨年度は、所々、会の形式を大胆に変えて行われ、多くの方が参加してくださいました。今年度も一人でも多くの方に参加していただきたいと願っています。詳細は計画中ですが、礼拝を中心しつつ、楽しい昼食の時間、分団や証しの時間などを企画しています。会の終了後には、受験相談の時も持つ予定です。皆様の参加をお待ちしております。
- ③ 12 月 6 日（土）「オープンキャンパス」を行います。礼拝から始まり、キャンパスツアー（本館、図書館、学生寮など）、教員によるショート・レクチャー、入試説明、そして受験相談を企画しています。入試のことだけでなく、召命感のこと、学費のこと、神学校生活のことなど、何でも相談してください。受験を考えておられなくても、学校を見学してみたいという方も歓迎いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

以上の行事についての詳細は、今後大学のホームページを通してご案内して参りますので、どうぞそちらをご覧ください。
お問い合わせの際には、以下の連絡先をご参照ください。

Tel: 0422-32-4185
Fax: 0422-33-0667
Email: tuts@tuts.ac.jp
(件名に「入試行事に関する問い合わせ」とご記入ください)

誰もがこれからの世界の将来について不安を抱いているこの時代においてこそ、キリストの福音を語る伝道者が必要とされています。以上の行事が、皆様にとって献身を考えるきっかけになればと願っております。

『伝道と神学』 15号 発行のご案内

神学会委員長 本城 仰太

『伝道と神学』 15号が2025年3月に発行されました（定価1,500円＋税）。本号には本学教員および関係者による12本の神学論文が掲載されていますので、ぜひお読みください。

巻頭の山口陽一先生（東京基督教大学）の論文は、2024年12月3日に開催された日本伝道研究所主催の「公開講演会」のもので、現代に至るまでの日本の状況を踏まえ、伝道のために乗り越えなければならない課題の問題提起がなされています。昨年に引き続き、今年も1月に「教職セミナー」が開催されました。テーマは「福音の担い手…伝道者論をめぐって」です。小泉健先生による主題講演のほか、本学教員による発題の論文4本が掲載されています。そのほか自由研究として、田中光先生の詩編注解の論文と学会参加報告、博士課程研究論文として飯田仰先生、清野久貴先生、見城康佑先生の論文、また金旻哉先生による修士論文の要約も掲載されています。

『日本伝道研究所講演（2024年12月3日）』

日本における伝道の根本課題
―戦時下の「日本的キリスト教」を読んで考えたこと―

山口 陽一

『第53回教職セミナー（2025年1月7～9日）』

〈主題講演〉福音を生きる―伝道者の霊性
〈発題〉伝道者とは福音の担い手である
―伝道者アウグステイヌス―

小泉 健
長山 道
本城 仰太

―洗礼志願者に何を語ったのか
旧約聖書における教師・伝道者
―トラー、知恵文学、知者の存在をめぐる考察
弱さを担う協働者たち…パウロ書簡の伝道者像

宮崎 薫
河野 克也

『自由研究』

詩編注解（3）：詩編3編
SBL (Society of Biblical Literature) 学会参加報告

田中 光
田中 光

『博士課程研究』

バシレイオスの創造理解について
―『ヘクサエメロン』からの一考察
コンテンポラリー礼拝について
原初史の成立と楽園物語について

飯田 仰
清野 久貴
見城 康佑

『修士論文要約』

ブルンナー神学における人格主義についての考察

金 旻哉

「神学校日礼拝」奉仕神学生 派遣に関するご案内

10月第二主日は「神学校日・伝道献身者奨励日」です。神学校を覚え、また伝道献身者が起こされるように呼びかけをお願いいたします。この日の礼拝のために、神学生を派遣いたします。これまでも神学生を招いて説教や証しの機会を与えてくださっていますことに感謝申し上げます。

派遣の目的

神学生派遣の目的は、(1)教会、学校の皆さんに神学生に触れていただき、神学生や神学校を覚える機会となることです。

さらに、(2)神学生が説教奉仕を通して訓練され、また神学校生活が多く祈りに支えられていることを体験することです。

派遣の時期

神学生の人数が減っており、神学生の数よりもずっと多くの教会から申し込みをいただいています。そのため、申し込みをいただいても、お応えすることができないことがあります。

少しでも多くの教会に神学生をお送りできるように、本学としては、期間を長くとり、9月から11月を派遣の時期と考えています。諸教会、学校におかれましても、10月第二主日にこだわらずに「神学校日」の日程を設定していただけると、たいへんありがたく存じます。

派遣する神学生

これまでは、すでに夏期伝道実習を経験した学部4年生以上の神学生を派遣してきました。今後は、学部3年生までの神学生をお迎えいただき、証しなどをさせていただきますこともお考えいただきたいと願っています。その形でもよい場合は、申し込みの際に、その旨をお知らせください。

申し込みの方法

かかわりのある神学生がいる場合は、その神学生と直接連絡を取り、奉仕を依頼していただいてもかまいません。

本学に申し込んでくださる場合は、書面（郵便、ファックス、メールなど）で、教会・団体名、担当者氏名、連絡先、希望する日、奉仕内容、交通費などの有無、その他のご希望をお知らせください。

希望する日については、どうしても10月第二主日に集中してしまいますが、すでに述べましたように、学生数が少なく、この日だけでは多くの教会のお招きにお応えすることができません。できるだけ多くの候補日を挙げていただくと助かります。また、10月以外の日程もお考えください。

申し込みの宛て先は、本学教会実習委員会です。メールの場合は小泉のアドレスまでお願いします (kenkoizumi@tuts.ac.jp)。

申し込み後の予定

申し込みの締め切りは7月末日です。派遣する神学生が決まり次第ご連絡いたします。9月第一主日までにご連絡することを目指しますが、もしかするとその日を過ぎてしまいかもかもしれません。その際はご容赦ください。必要があれば、いつでもお問い合わせください。

東京神学大学教会実習委員会

小泉 健

公 示

東京神学大学同窓会総会

◇日時 2025年6月3日（火）日本伝道フォーラム終了後（16時頃）

◇会場 東京神学大学礼拝堂

- ◇議題
1. 東京神学大学同窓会役員選出に関する件
 2. 東京神学大学同窓会の今後の活動に関する件
 3. 東京神学大学同窓会「決算」および「予算」に関する件

以上

東京神学大学同窓会役員会 会長 長山信夫

※総会当日、同窓会費の納入（2025年度、2,000円）をお願いいたします。

やむを得ず総会に出席できない方は「振り込み」による納入をお願い申し上げます。

- 「ゆうちょ銀行」 記号：11360 番号：13995871
口座名義：東京神学大学同窓会

- 「他金融機関」から送金する場合
店名：一三八 店番：138 預金種目：普通預金
口座番号：1399587 口座名義：東京神学大学同窓会

・振込の際の領収書は「ご利用明細票（振替受領票）」とさせていただきます。

学 事 往 来

4月1日 入学式（前期始業講演
は中止）

4月1日～3日

新生・新編入生オリ
エンテーション

4月4日 公開夜間神学講座
開講式・神学入門

4月5日 前期授業開始

4月7日 公開夜間神学講座1学
期開始 銀座教会

4月15日 神学校全学集会

4月16日 クラス別懇談会

5月12日～13日 同期研修会

5月13日 全学懇談会

5月17日 キリスト教学校伝道協
議会

議

主題「キリスト教学校
の担い手を育む ―後
継者養成を巡って―」

5月30日 運動会

6月2日～3日

日本伝道フォーラム

【理事会関係】

5月12日 第563回常務理事会

5月26日 第257回定期理事会、
第1回臨時評議員会、
第258回定期理事会

5月26日 第257回定期理事会、
第1回臨時評議員会、
第258回定期理事会

5月26日 第257回定期理事会、
第1回臨時評議員会、
第258回定期理事会

5月26日 第257回定期理事会、
第1回臨時評議員会、
第258回定期理事会

東京神学大学

【後援会関係】

4月14日 第1回東京地区推進委
員会

4月21日 後援会全国委員会

4月21日 後援会全国委員会

公 務 出 張

4月1日 入学式

4月4日 公開夜間講座開講式

4月14日 後援会東京地区推進委
員会

4月21日 後援会全国委員会

5月9日 監査監事会

5月12日 常務理事会

5月17日 キリスト教学校伝道協

5月26日 定期理事会、臨時評議
議会

5月26日 定期理事会、臨時評議
議会

6月9日 定期評議員会

7月7日、8日 教団常議員会

7月14日 常務理事会、資金管理
運用委員会

7月14日 常務理事会、資金管理
運用委員会

東京神学大学

《訃報》

北島 敏之氏

2024年12月17日逝去されま
した。95歳。（1954年日本
基督教神学専門学校卒業）

2024年12月30日逝去されま
した。99歳。（1951年日本
基督教神学専門学校卒業）

2024年12月30日逝去されま
した。99歳。（1951年日本
基督教神学専門学校卒業）

2024年12月30日逝去されま
した。99歳。（1951年日本
基督教神学専門学校卒業）

2024年12月30日逝去されま
した。99歳。（1951年日本
基督教神学専門学校卒業）

佐野 英二氏

2025年1月29日逝去されま
した。83歳。（1967年東京
神学大学院修了）

2025年2月13日逝去されま
した。87歳。（1966年東京
神学大学院修了）

2025年2月13日逝去されま
した。87歳。（1966年東京
神学大学院修了）

2025年2月13日逝去されま
した。87歳。（1966年東京
神学大学院修了）

2025年2月13日逝去されま
した。87歳。（1966年東京
神学大学院修了）

加藤 満氏

2025年2月15日逝去されま
した。97歳。（1954年日本
基督教神学専門学校卒業）

2025年4月8日逝去されま
した。89歳。（1960年東京
神学大学院修了）

2025年4月8日逝去されま
した。89歳。（1960年東京
神学大学院修了）

2025年4月8日逝去されま
した。89歳。（1960年東京
神学大学院修了）

2025年4月8日逝去されま
した。89歳。（1960年東京
神学大学院修了）

2025年4月8日逝去されま
した。89歳。（1960年東京
神学大学院修了）

2025年4月8日逝去されま
した。89歳。（1960年東京
神学大学院修了）

2025年4月8日逝去されま
した。89歳。（1960年東京
神学大学院修了）

✳卒業生一同から寄贈

大学院博士課程前期課程第71
回修了生・学部第73回卒業生
の皆さんから、卒業記念とし
て、パン皿（アルミ製）が2
枚寄贈されました。ご厚意に
感謝いたします。

告 知 板

公開夜間神学講座
聴講のご案内

科目ごとの聴講を受け付けています。

（1科目 12,000円）

なお、定員になり次第、受付を中止い
たします。事前にお問い合わせください。

9月～10月

月曜日「キリスト教教理の基礎Ⅰ」

講師 菊地 順

金曜日「ヘブライ書に聴く」

講師 中野 実

10月～12月

月曜日「礼拝と説教」

講師 小泉 健

金曜日「現代神学入門」

講師 須田 拓

○教 室：銀座教会 5階

○時 間：午後6時～8時

○問合せ・申込み：本学学外活動委員会

TEL：0422-32-4185

FAX：0422-33-0667

E-mail：yakankouza@tuts.ac.jp

二〇二五年五月九日発行
東京神学大学報・三三三二号
〒181-0015 東京都三鷹市大沢三一〇―三〇
東京神学大学広報委員会
電 話 〇四二二―三三―四一八五
F A X 〇四二二―三三―〇六六七
郵便振替 〇〇一五―五〇―三三三
https://www.tuts.ac.jp/